



四国健康 七

徳島大学病院小児歯科 岩本 勉 教授

上の前歯は機能的にとても大切な歯ですが、審美的にも非常に重要な歯です。本来、歯はほぼ左右対称に萌出してくるのですが、時々「過剰歯(齶贅)の歯の本数よりも余分に歯の萌出があることにより、歯の位置が妨げられたり、歯の位置が乱れたりすることがあります。

このような場所は歯列の中であったり、歯列の外であったり、中には埋もれたままの歯もあります。また、過剰歯が生えてくる方向には正常方向のもの、逆方向のもの、あるいは真横を向いたものもあります。正常方向の過剰歯は、萌出を待って抜くことがありますが、自然な萌出が期待できない場合や歯列に異常を来している場合には積極的な抜歯が必要となります。また、抜歯後は、正しい歯並びを獲得するために歯並びの治療が必要になることが多いです。

ごへまれに歯並びに影響を与えないで、正常な永久前歯の歯根を静かに吸収する過剰歯も存在します。このような過剰歯の発見に遅れた場合、健全な永久前歯を抜歯せざるを得ないケースもあります。

子どもの歯並び左右する過剰歯

片側は乳歯も抜け、大人の歯が生えてきているにもかかわらず、もう片方の乳歯が全く抜けず、永久歯も出てこないといったことが気付くこともあります。また、前歯の交換のとき、通常左右の大人の歯が隙間を伴って生えてくるのに、片側は歯がありませんが、多くの場合、横の歯が出てくるに連れて自然に閉鎖します。しかたながら、自然に治らない場合、正中離開が著しく大きい場合は、過剰歯が前歯の間に存在することがあります。

通常過剰歯は上の前歯付近が多くなります。過剰歯が生えてくる場所は歯列の中であったり、歯列の外であったり、中には埋もれたままの歯もあります。また、過剰歯が生えてくる方向には正常方向のもの、逆方向のもの、あるいは真横を向いたものもあります。正常方向の過剰歯は、萌出を待って抜くことがありますが、自然な萌出が期待できない場合や歯列に異常を来している場合には積極的な抜歯が必要となります。また、抜歯後は、正しい歯並びを獲得するために歯並びの治療が必要になることが多いです。

最近では口腔の健康への意識の高まりから、虫歯がないために、歯科医院に一度も通院したことがない児童も多くなっています。しかしながら、歯の数の問題を抱えた児童は少なくなく、過剰歯も珍しくありません。最近では診断の技術も上がってきており、過剰歯を早期に発見し、早期に摘出したケースではその後の歯並びの問題を回避できるケースも分かっています。虫歯がなくても、歯の交換期が近づいてきたら、一度、歯科医師での相談をお勧めいたします。